

| | | | |
|---|--|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 法律学 | 必修科目 | 2 単位 | 豊福 一 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 社会で活動・生活するために必要な法理解 | | | |
| 授業の概要 基礎的な法律（国際法を含む）について概説する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：婚姻と離婚（国際結婚も含む） 第 2 回：親子（条約における子の引渡しも含む） 第 3 回：扶養と公的扶助、保険 第 4 回：相続 第 5 回：物権と債権 第 6 回：契約：と解除、借地権 第 7 回：契約：消費貸借ほか 第 8 回：不法行為 第 9 回：消費者法 第 1 0 回：労働法 第 1 1 回：刑事法 第 1 2 回：紛争解決（国際管轄を含む） 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト 山田勉 編『新時代の法学・憲法』建帛社 | | | |
| 参考書・参考資料等 法律条文については、各社の六法を参照。 | | | |
| 学生に対する評価 筆記試験（100%） | | | |

| | | | |
|---|--|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 日本史特殊講義Ⅶ（近現代日本の政治 a） | 選択科目 | 2 単位 | 松下 孝昭 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 日本近現代の政治に関する専門講義を通して研究のプロセスを理解し、自らも卒業論文作成を実践していこうとする意欲を持つに到ることが目標となる。 | | | |
| 授業の概要 特殊講義Ⅶでは、近現代日本における軍隊の立地と都市形成について、主として地方政治の視点から講じ、その延長上に戦後の警察予備隊（現自衛隊）の立地をめぐる誘致や反発についても言及する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：近現代日本政治研究の現状と課題 第 2 回：近現代日本を研究するための資料 第 3 回：陸海軍の編制と城跡 第 4 回：軍隊の誘致と都市形成 第 5 回：日清戦後の軍拡 第 6 回：軍隊誘致をめぐる各地の状況 第 7 回：日露戦後の軍拡と軍隊の拡張 第 8 回：軍隊誘致と都市形成 第 9 回：東西冷戦の激化と朝鮮戦争の勃発 第 10 回：日本の再軍備と警察予備隊の創設 第 11 回：警察予備隊をめぐる誘致と反発 第 12 回：自衛隊の発足と駐屯地 第 13 回：試験、全体的なまとめ | | | |
| テキスト 松下孝昭『軍隊を誘致せよ―陸海軍と都市形成』吉川弘文館 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 試験による（100％）。なお、教科書、手書きノート、配布プリントの持ち込みを許可する。 | | | |

| | | | |
|--|--|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 日本史特殊講義Ⅷ（近現代日本の政治b） | 選択科目 | 2 単位 | 松下 孝昭 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 日本近現代の政治に関する専門講義を通して研究のプロセスを理解し、自らも卒業論文作成を実践していこうとする意欲を持つに到ることが目標となる。 | | | |
| 授業の概要 特殊講義Ⅷでは、都市の振興の手段として軍隊を誘致したいわゆる軍都に着目し、それとの比較で工場・企業の誘致や博覧会を誘致して振興の手段とした他都市についても取り上げて、近現代日本における地方政治状況や地域社会の特質を論じていく。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：近現代日本政治研究の現状と課題 第 2 回：近現代日本を研究するための資料 第 3 回：陸海軍の誘致による軍都の形成 第 4 回：軍隊立地と鉄道網の関連性 第 5 回：軍隊と水道普及との関連性 第 6 回：軍隊と遊廓 第 7 回：軍隊と商店街・御用商人 第 8 回：工場の誘致と都市形成－高砂市の場合－ 第 9 回：内国勸業博覧会の誘致合戦 第 1 0 回：明治期京都市の地域振興策－京都・舞鶴間の鉄道敷設運動－ 第 1 1 回：明治期京都市の地域振興策－第 4 回内国勸業博覧会－ 第 1 2 回：京都師団の誘致をめぐる京都市政 第 1 3 回：試験、全体的なまとめ | | | |
| テキスト 松下孝昭『軍隊を誘致せよ－陸海軍と都市形成』吉川弘文館 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 試験による（100％）。なお、教科書、手書きノート、配布プリントの持ち込みを許可する。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 東洋史特殊講義Ⅲ（アジアの政治 a） | 選択科目 | 2 単位 | 磯部 淳史 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める | 教科に関する専門的事項 | | |
| 科目区分又は事項等 | ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| (1) 前近代東アジアの政治体制や制度について理解し、それを説明することができる。 | | | |
| (2) 前近代東アジア、特に明清時代の政治・社会や支配体制の特徴について、政治学や法学の見地から自分なりに考え、説明することができる。 | | | |
| (3) 前近代東アジアの政治が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え、説明することができる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義では、中国を中心とした前近代東アジア（東部ユーラシア）の政治について概観する。講義ではまず前近代東アジア全体の政治にあり方を解説した後、特に 14-19 世紀の明清時代における政治制度・統治体制・法制度などについて、歴史学のみならず政治学や法学の視点を交えつつ解説する。前近代東アジアにおける政治体制・制度がいかなる特色を持ち、それが現代政治とどのように関連し、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：イントロダクション・東アジア政治史の概観、授業の進め方の説明 | | | |
| 第 2 回：中国古代・中世における政治と官僚制 | | | |
| 第 3 回：北アジア・中央アジア諸国家とその政治体制 | | | |
| 第 4 回：君主独裁制の成立と展開：宋から清まで | | | |
| 第 5 回：君主と側近①：内閣と宦官 | | | |
| 第 6 回：君主と側近②：君主独裁制と禁苑 | | | |
| 第 7 回：君主と側近③：清代八旗制における人的結合 | | | |
| 第 8 回：君主と側近④：侍衛・内務省・書記局 | | | |
| 第 9 回：清朝の支配体制と政治制度 | | | |
| 第 10 回：近世中国における都城と政治空間 | | | |
| 第 11 回：明清時代の法と社会 | | | |
| 第 12 回：北方ユーラシアの法体系 | | | |
| 第 13 回：君主政治の終焉と近現代政治への影響／まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 授業中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 期末レポート：70% 平常点（授業後の提出するコメントシート）：30% | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 東洋史特殊講義Ⅳ（アジアの政治Ⅱ） | 選択科目 | 2 単位 | 磯部 淳史 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める | 教科に関する専門的事項 | | |
| 科目区分又は事項等 | ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| (1) 前近代東アジアの政治体制や制度について理解し、それを説明することができる。 | | | |
| (2) 前近代東アジア、特に清朝の政治・社会や支配体制の特徴について、政治学・法学の見地から自分なりに考え、説明することができる。 | | | |
| (3) 前近代東アジアの政治が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え、説明することができる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義では、中国を中心とした前近代東アジア（東部ユーラシア）の政治について概観する。講義ではまず前近代東アジア全体の政治にあり方を解説した後、特に 17-19 世紀の清代における政治史の展開・統治体制・政治制度などについて、歴史学のみならず政治学や法学の視点を交えつつ解説する。前近代東アジアにおける政治体制・制度がいかなる特色を持ち、それが現代政治とどのように関連し、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：イントロダクション・東アジア政治史の概観、授業の進め方の説明 | | | |
| 第 2 回：中国古代・中世における政治と官僚制 | | | |
| 第 3 回：北アジア・中央アジア諸国家とその政治体制 | | | |
| 第 4 回：君主独裁制の成立と展開①：科挙と君主独裁（宋の政治） | | | |
| 第 5 回：君主独裁制の成立と展開②：皇帝権力と内閣（明の政治） | | | |
| 第 6 回：清代の政治と社会①：明との連続性と君主独裁制の発展 | | | |
| 第 7 回：清代の政治と社会②：八旗制における人的結合 | | | |
| 第 8 回：清代の政治と社会③：清朝皇帝と側近機構 | | | |
| 第 9 回：清朝の支配体制：帝国統治の多様性 | | | |
| 第 10 回：清朝の支配体制：清代の王権と統治集団 | | | |
| 第 11 回：近世中国における都城と政治空間 | | | |
| 第 12 回：清代政治の東アジア的同时代性：朝鮮李朝・琉球・江戸時代日本との比較 | | | |
| 第 13 回：君主政治の終焉と近現代政治への影響／まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 授業中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 期末レポート：70% 平常点（授業後の提出するコメントシート）：30% | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 現代社会 | 必修科目 | 2 単位 | 川森 博司 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 現代社会の位置づけを把握し、現代社会が直面している課題を認識する。 | | | |
| 授業の概要 近代化のプロセスの結果として現代社会を位置づけ、近代化の光と影を具体的に学習した後に、地域づくり、少子高齢化社会における生きがいなどのテーマについて講義をおこなう。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：導入-現代社会を論じるために 第 2 回：近代化の光と影 第 3 回：現代社会の位置づけ 第 4 回：柳田国男の社会構想 第 5 回：過渡期の認識と「都市」の発見 第 6 回：ふるさとイメージと開かれた土着思想 第 7 回：モダニティと現代民俗誌 第 8 回：現代市民社会における民俗調査 第 9 回：観光と現代社会 第 1 0 回：地域づくりと観光 第 1 1 回：少子高齢化と女性のライフコース 第 1 2 回：現代社会と生きがい論・幸福論 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト 授業中に適宜資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 見田宗介『社会学入門 人間と社会の未来』岩波書店 | | | |
| 学生に対する評価 筆記試験（100%） | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|------------------|--------------------------------|
| 授業科目名： 西洋史特殊講義Ⅲ（ヨーロッパの社会と経済 a） | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 吉村 真美 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 1．近代イギリスについて、本国および植民地を含む帝国としての枠組みでの政治的・社会的情勢を理解する。 2．現代イギリスにおいても社会問題となっている子ども移民(child migration)について、イギリス近代史の文脈におけるその役割や機能、意義、経済的背景を理解する。 3．現代世界においてグローバル化した不自由労働市場における子ども労働力と、その国際移動について理解し、この問題を歴史的に考察する。 | | | |
| 授業の概要 貧困層の年少者が家族や血縁者に伴われることなく海外植民地に渡る子ども移民(child migration)は、17 世紀初頭における北米植民の開始とほぼ時期を同じくしてはじまった、イギリス帝国に利益をもたらすチャリティであり、同時に伝統的かつ典型的な棄民政策のひとつでもあった。講義では、この制度の実態と変遷をイギリス帝国史の枠組みでとらえ、そこに作用したさまざまな社会的・経済的・文化的要因を視野に入れて、多角的な検証・考察を試みる。さらに、グローバル化した世界における、国際的な不自由労働市場における子ども労働力と、国境を越えた移動という現代社会の事象についても歴史的視座から考察する。 | | | |
| 授業計画(105 分×13 週) 第 1 回：序論 第 2 回：子ども移民に関する映像資料の視聴と解説 第 3 回：楽園と浮浪児 第 4 回：ヴァージニア子ども移民 第 5 回：兵士と流刑囚 第 6 回：北米植民地への年少者移送 第 7 回：罪の子と「メサイア」 第 8 回：犯罪と子どもたち 第 9 回：刑務所と感化院 第 10 回：帝国と子ども移民 第 11 回：博愛と誘拐 第 12 回：戦争と子ども移民 第 13 回：結論 子ども移民の現在 試験、まとめ | | | |
| テキスト なし | | | |
| 参考書・参考資料等 適宜指示する。 | | | |
| 学生に対する評価 課題 10%、筆記試験 90% | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|------------------|--------------------------------|
| 授業科目名： 西洋史特殊講義Ⅳ（ヨーロッパの社会と経済 b） | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 吉村 真美 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 イギリス帝国史研究において、移民や被支配民族、ジェンダーとセクシュアリティなどの視点から、近年注目される新しい帝国像について学び、理解を深める。 | | | |
| 授業の概要 わが国でも長く支配的であった伝統的な「島国の一国史」的なイギリス像にかわり、複数のネーションからなる複合国家であり、本国と広範な海外領土からなる帝国としてのイギリスという理解は、いまや常識として定着している。授業ではとくに、従来の帝国史研究では等閑視されてきた移民や被支配民族、女性や子どもなどの不可視化されてきた人びとに目を向け、イギリス帝国の社会と経済について、支配と被支配の構造、帝国とジェンダー、複数帝国の政治・経済の間帝國的力学とその推移、グローバル・ヒストリーと帝国など、多角的な視点からイギリス帝国とその史的意義を検証する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：はじめに イギリス帝国史研究の動向 第 2 回：王国の統合 第 3 回：奴隷と帝国 第 4 回：新世界へ 第 5 回：帝国の再編 第 6 回：インドの支配 第 7 回：グローバルな成長 第 8 回：帝国の統治 第 9 回：支配されるということ 第 1 0 回：ジェンダーとセクシュアリティ 第 1 1 回：帝国支配への抵抗 第 1 2 回：脱植民地化 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト なし | | | |
| 参考書・参考資料等 フィリップ・レヴァイン、並河葉子・水谷智・森本真美訳『イギリス帝国史： 移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから』昭和堂 | | | |
| 学生に対する評価 授業中課題（10％）、試験 1 回（90％） | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|-------------------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 女性史Ⅰ（ジェンダー論a） | 選択科目 | 2単位 | 松下 孝昭、山内 晋次、鈴木 宏節 |
| | | | 担当形態： |
| | | | オムニバス |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| さまざまな地域と時代における女性の位置・役割を学ぶことにより、現代の女性をとりまく諸問題の起源を歴史的に把握する視点を得ることを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 日本近現代史・日本古代中世史・東洋史における最新の研究成果にもとづき、3人の教員が4回ずつの講義を担当し、女性史の視座から見た地域的・時代的特質を講じる。 | | | |
| 授業計画（105分×13週） | | | |
| 第1回：ガイダンス（松下） | | | |
| 日本近現代史の立場から（松下） | | | |
| 第2回：明治期の女性の地位 | | | |
| 第3回：女性解放運動の胎動 | | | |
| 第4回：軍隊と遊廓との関係性 | | | |
| 第5回：ジェンダー視点から見る遊廓 | | | |
| 日本古代中世史の立場から（山内） | | | |
| 第6回：交易とジェンダー（1. 商人・商業と女性） | | | |
| 第7回：交易とジェンダー（2. 船・航海と女性） | | | |
| 第8回：宗教・信仰とジェンダー（1. 女神としての観音菩薩） | | | |
| 第9回：宗教・信仰とジェンダー（2. 海の神としての女性） | | | |
| 東洋史の立場から（鈴木） | | | |
| 第10回：日本社会と遊牧社会 | | | |
| 第11回：遊牧社会の生活と女性 | | | |
| 第12回：婚姻から見るモンゴルの女性 | | | |
| 第13回：政治と経済から見るモンゴルの女性 | | | |
| テキスト | | | |
| 担当教員より適宜指示 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 担当教員より適宜指示 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 各担当教員が実施する課題レポート・試験等の合計 60%＋受講態度 40% | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|------|------------------------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 女性史Ⅱ（ジェンダー論 b） | 選択科目 | 2 単位 | 川森 博司、齋藤 瑞穂、 吉村 真美、 |
| | | | 担当形態： オムニバス |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 さまざまな地域と時代における女性の位置・役割を学ぶことにより、現代の女性をとりまく諸問題の起源を歴史的に把握する視点を得ることを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 日本民俗学・日本考古学・西洋近現代史における最新の研究成果にもとづき、3 人の教員が 4 回ずつの講義を担当し、女性史の視座から見た地域的・時代的特質を講じる。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：ガイダンス（川森） 日本民俗学の立場から（川森） 第 2 回：女性と民間信仰－「妹の力」再考－ 第 3 回：日本昔話における女性像 第 4 回：婚姻の社会史 第 5 回：避妊と中絶の社会史 日本考古学の立場から（齋藤） 第 6 回：考古資料から見た男性と女性 第 7 回：霊長類のメスと人間の女性－人間以前の社会と人間の社会－ 第 8 回：男性の仕事と女性の仕事－縄文時代の社会経済史－ 第 9 回：女性首長の誕生－弥生・古墳時代の女性－ 西洋近現代史の立場から（吉村） 第 1 0 回：フェミニズムと女性史－政治参加と経済的自立への歩み－ 第 1 1 回：近代イギリスの社会とジェンダー－規範と現実－ 第 1 2 回：帝国とジェンダー－植民地主義と脱植民地主義－ 第 1 3 回：グローバリゼーションとジェンダー－労働の国際移動と家族－ | | | |
| テキスト 各教員の指示に従うこと。 | | | |
| 参考書・参考資料等 各教員の指示に従うこと。 | | | |
| 学生に対する評価 各担当教員が実施する課題レポート・試験等の合計 60%＋受講態度 40% | | | |

| | | | |
|--|---------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 哲学 | 選択科目 | 2 単位 | 栗山 はるな |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める | 教科に関する専門的事項 | | |
| 科目区分又は事項等 | ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 現代に生きる私たちが抱える様々な問題に対する受講生自らの「考える力」を養ってもらうことを目的とする。個々の課題に対して考え方を整理して思考でき、表現できるようになることが目標。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 私たちの日常の生活は多くの「正しさ」「常識」「普通」に支えられていますが、一方で現代はそのような共通理解が揺らいでいる時代でもあります。私たちは「正しさ」についての考えを共有することができるのか、もし「正しさ」について考えられるとしたらそれをどう考えることができるのか。講義前半は哲学の特性やその歴史的経緯を踏まえて、主に近現代哲学に見られる認識、言語、歴史の「正しさ」についての考え方を紹介します。後半は西洋哲学と東洋思想との考え方の違いと日本近代の哲学について、具体的な歴史状況を踏まえながら紹介します。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：ガイダンス | | | |
| 第 2 回：「正しいこと」はあるか？ | | | |
| 第 3 回：われわれは世界を認識できるか？ | | | |
| 第 4 回：歴史・文化とその解釈 | | | |
| 第 5 回：ことばについて | | | |
| 第 6 回：自分と社会について | | | |
| 第 7 回：哲学で考えるということ | | | |
| 第 8 回：戦争と哲学 | | | |
| 第 9 回：哲学史の中の日本の近代 | | | |
| 第 1 0 回：仏教思想と日本の哲学 | | | |
| 第 1 1 回：日本の哲学・倫理学①西田哲学 | | | |
| 第 1 2 回：日本の哲学・倫理学②和辻倫理学 | | | |
| 第 1 3 回：まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 図説・標準 哲学史（貫成人著、新書館） | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 最終レポート40％、毎回の小レポート 60％ | | | |

| | | | |
|---|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 思想 | 選択科目 | 2 単位 | 栗山 はるな |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 普段の生活の中で当たり前のように思っているルール、社会的な事件の基盤に様々な思想・哲学があることを知り、またそれを通して、正解のない問題に取り組む際の考え方を身につけることを目指す。 | | | |
| 授業の概要 我々の生きる現実について考えることは本来とても難しいことです。特に多様化の時代と言われる現代社会では、個々の疑問に対して正解があるのかすら見えにくい状況にあります。この講義では世界的なできごとや先人達のアイデア（正しさや自由、平等などについて）を頼りに皆さんと共に我々の生活について向き合うことを目指します。人文知の楽しさを知ってもらうことで、この授業が皆さん自身の生に向き合う一助となればと思います。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：哲学の生まれる場面 反出生主義 第 3 回：デカルトとカント 正しさの追求 第 4 回：ニーチェと道徳の崩壊 第 5 回：ベンサムと功利主義 第 6 回：ミルと自由主義 第 7 回：マルクスと資本主義 第 8 回：ロールズの正義論 第 9 回：格差の思想 第 1 0 回：仏教の思想とわたしの哲学 第 1 1 回：フェミニズム 第 1 2 回：環境思想 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト はじめて学ぶ政治学（岡崎清輝、木村俊道編、ミネルヴァ 書房） | | | |
| 参考書・参考資料等 授業でそのつど紹介する | | | |
| 学生に対する評価 毎回の授業内ミニレポート（60％）、最終試験（40％） | | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 宗教 | 選択科目 | 2 単位 | 栗山 はるな |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 宗教がどのように我々の生活に影響を与えているのか、なぜそれを知る必要があるのかについて理解すること。様々な宗教の特徴について比較を通して理解し、世界的な宗教問題について考える視座を獲得すること。宗教的な文化芸術の背景について知ること。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 宗教は古代から近代に至るまで世界の社会、文化をリードしてきたいわば我々の社会の親とも言うべき存在です。宗教的な問題は世界中で大きな関心をもって取り上げられますが、一方で日本では比較的関心を持たれない傾向にあります。この授業ではそれぞれの教えに関する基礎知識を確認し、その現代社会に与える影響について考える中で、皆さんが宗教的な問題に向き合う際の姿勢を培うことを目指します。また、様々な宗教芸術作品や建築についても適宜紹介します。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：ガイダンス | | | |
| 第 2 回：世界の宗教と宗教を学ぶ意味 | | | |
| 第 3 回：ユダヤ教①一神教の祖としてのユダヤ教 | | | |
| 第 4 回：ユダヤ教②ユダヤ教とイスラエル | | | |
| 第 5 回：キリスト教①キリスト教のはじまり | | | |
| 第 6 回：キリスト教②各宗派とキリスト教文化 | | | |
| 第 7 回：イスラム教①イスラームのはじまり | | | |
| 第 8 回：イスラム教②イスラーム文化と現代 | | | |
| 第 9 回：仏教①仏教のはじまり | | | |
| 第 1 0 回：仏教②日本の仏教 | | | |
| 第 1 1 回：神道 | | | |
| 第 1 2 回：宗教と日本文化 | | | |
| 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| なし。プリントを授業で配布 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 世界がわかる宗教社会学入門（橋爪大三郎著、ちくま文庫） | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 授業内ミニレポート（60％）、最終テスト（40％） | | | |

| | | | |
|---|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 倫理学概論 | 必修科目 | 2 単位 | 田中 美紀子 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 西洋倫理学の古典を読み、基本的用語を学び、その意味を理解できる。また、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、善悪、正邪等を判断する基準について考えることができる。 | | | |
| 授業の概要 西洋倫理学の主要な思想を学ぶ。特に、アリストテレスの徳倫理学とカントの義務倫理学に重点を置き、彼らの主要著書を読む。各々の思想の基礎的な内容について研究課題を与えるので、学生が個人あるいはグループでその課題について考え、ワークシートに記入して提出する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：ガイダンス、倫理学とは？ 第 2 回：プラトン、四元徳 第 3 回：アリストテレス：徳倫理学 第 4 回：エピクロスとストア派 第 5 回：社会契約説：ホッブズ、ロック、ルソー 第 6 回：功利主義倫理学：ベンサム、J. S. ミル 第 7 回：カント『道徳形而上学原論』序言：道徳感情論、ア・プリオリとア・ポステリオリ 第 8 回：カント『道徳形而上学原論』第 1 章：善意志、義務の概念 第 9 回：カント『道徳形而上学原論』第 1 章：偽りの約束 第 1 0 回：カント『道徳形而上学原論』第 2 章：定言命法 第 1 1 回：カント『道徳形而上学原論』第 2 章：目的としての人間性、人格 第 1 2 回：和辻哲郎の倫理学 第 1 3 回：試験、総括 | | | |
| テキスト カント『道徳形而上学原論』岩波文庫 宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業で適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 小テスト・ワークシートなどの提出物（20％）、定期試験（80％）及び受講態度などを総合的に判断する。 | | | |

| | | | |
|---|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 宗教思想史Ⅰ | 選択科目 | 2単位 | 島津 毅 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 現代社会にも生き続ける「ケガレ」観念が、古代・中世の神祇信仰の展開とどのような関わりのなかで形成されてきたのか、そして近世以降の社会へどのように展開していくのかを理解する。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 「ケガレ」は、日本でも宗教ことに神祇信仰と密接な関係にあつて、日本の政治・文化の形成・展開にさまざまな影響を及ぼしてきた。このことは、「ケガレ」を基軸に日本の歴史を振り返るとき、日本の政治・文化・宗教史の理解につながることを意味する。 そこで本講では、古代・中世を通じて（8世紀から16世紀までの900年間を目安として）、「ケガレ」が神祇信仰、宮廷社会とどのような関わりのなかで形成され、近世社会の「ケガレ」へと展開していくかを考察する。こうした考察を通して、日本人が古来抱いていた穢観念の実態を捉えていく。 | | | |
| 授業計画（105分×13週） | | | |
| 第1回：穢れとは・神祇信仰との関係 | | | |
| 第2回：7世紀・8世紀初め頃までの穢れ | | | |
| 第3回：中国文化の受容 | | | |
| 第4回：平安時代前期における穢観念の形成 | | | |
| 第5回：8～10世紀頃における律令祭祀制度とその変化 | | | |
| 第6回：『延喜式』制定以降の穢観念 | | | |
| 第7回：10・11世紀における中世祭祀制度の形成 | | | |
| 第8回：11世紀以降における禁忌意識とその深化 | | | |
| 第9回：中世穢観念の誕生 | | | |
| 第10回：中世社会における穢観念の展開と変容 | | | |
| 第11回：古代・中世における女性と穢観念 | | | |
| 第12回：中世末期～近世初期における神道と穢観念 | | | |
| 第13回：穢観念と現代・試験・総まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| なし | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 講義中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 受講態度（毎回の小テストを含む）40%、期末試験 60% | | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 宗教思想史Ⅱ | 選択科目 | 2 単位 | 島津 毅 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| ・ 古代・中世の人々の死生観を理解する。 ・ これから直面するであろう多死社会にあって必要と考えられる死生観の糧とする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 超高齢社会の日本にあって次に到来するのは多死社会である。このとき我々がどのような死生観を持っているのかは、重要なことのひとつと考えられる。 一方、日本人固有の死生観とこれまで考えられてきたのは、戦前から戦後にかけて柳田国男が指摘したものであった。しかし、近年では柳田民俗学の限界性が指摘されるなか、それに代わる古来からの日本人の死生観も明らかにされていない。 そこで、本講は古代中世の人々がどのような死生観を持っていたのか、葬送墓制を素材に考えていく。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：超高齢社会・多死社会と死生観 | | | |
| 第 2 回：柳田民俗学と日本人の死生観―柳田民俗学の死生観― | | | |
| 第 3 回：柳田民俗学と日本人の死生観―柳田民俗学の死生観の課題― | | | |
| 第 4 回：臨終と蘇生の儀礼 | | | |
| 第 5 回：死者と穢れ | | | |
| 第 6 回：葬送と遺体遺棄―庶民の葬送― | | | |
| 第 7 回：葬送と遺体遺棄―遺体遺棄と葬送― | | | |
| 第 8 回：葬送と穢れ | | | |
| 第 9 回：葬送の穢れと担い手 | | | |
| 第 1 0 回：葬送の凶事性 | | | |
| 第 1 1 回：葬送と「平生之儀」 | | | |
| 第 1 2 回：古代中世の死生観と死生学 | | | |
| 第 1 3 回：試験・総まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| なし | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 講義中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 受講態度（毎回の小テストを含む）40％・期末試験 60％ | | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 心理学Ⅰ | 選択科目 | 2 単位 | 久木山 健一 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 人間の心理と行動に関して心理学からの知見や考え方を学びます。 | | | |
| 授業の概要 「心理学Ⅱ」とあわせて、人間の心理と行動に関する心理学のさまざまな分野での知見や理論を概説します。「心理学Ⅰ」では、日常的で具体的な心の働きについて、その背景にあるメカニズムと共に学ぶことを目指します。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：心理学とは 第 2 回：心理学の歴史 第 3 回：“感じる”心のメカニズム 第 4 回：“覚える”心のメカニズム 第 5 回：“わかる”心のメカニズム 第 6 回：“決める”心のメカニズム 第 7 回：“やる気が出る”心のメカニズム 第 8 回：“できるようになる”心のメカニズム 第 9 回：“共感する”心のメカニズム 第 1 0 回：“癒される”心のメカニズム 第 1 1 回：“仕事をする”心のメカニズム 第 1 2 回：心を「見える化」する方法 第 1 3 回：まとめ 定期試験 | | | |
| テキスト 山口裕幸・中村奈良江（編）『ライブラリ心理学を学ぶ1 心理学概論』サイエンス社 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 毎回の小テスト（40%），定期試験（60%）で成績評価します。ただし，定期試験が実施できない場合は，毎回の小テスト（60%），レポート課題（40%）で成績評価を行います。 | | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 心理学Ⅱ | 選択科目 | 2 単位 | 久木山 健一 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 人間の心理と行動に関して心理学からの知見や考え方を学びます。 | | | |
| 授業の概要 「心理学Ⅰ」とあわせて、人間の心理と行動に関する心理学のさまざまな分野での知見や理論を概説します。「心理学Ⅱ」では、「心理学Ⅰ」で学んだ日常的かつ具体的な心理学に関する知識を、心理学の各分野の研究と結びつけて理論的に理解できるようになることを目指します。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：心理学と関連諸領域 第 2 回：心理学史 第 3 回：感覚・知覚心理学 第 4 回：記憶の心理学 第 5 回：認知心理学 第 6 回：意思決定の心理学 第 7 回：動機づけの心理学 第 8 回：発達心理学 第 9 回：社会心理学 第 1 0 回：臨床心理学 第 1 1 回：産業心理学 第 1 2 回：心理測定法 第 1 3 回：まとめ 定期試験 | | | |
| テキスト 山口裕幸・中村奈良江（編）『ライブラリ心理学を学ぶ1 心理学概論』サイエンス社 | | | |
| 参考書・参考資料等 講義中に適宜紹介します。 | | | |
| 学生に対する評価 毎回の小テスト（40%），定期試験（60%）で成績評価します。ただし，定期試験が実施できない場合は，毎回の小テスト（60%），レポート課題（40%）で成績評価を行います。 | | | |

| | | | |
|---|---------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 社会科・公民科指導法 I | 必修科目 | 2 単位 | 藤原 健剛 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 学習指導要領に示された社会科・公民科の目標や内容を理解し、実践できる。 | | | |
| 1 社会科・公民科の歴史的変遷が理解できる。 | | | |
| 2 現代社会の諸問題について、情報を整理し分析する力が身につく。 | | | |
| 3 学習指導要領における社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造が理解できる。 | | | |
| 4 授業計画及び学習指導案の作成ができる。 | | | |
| 5 授業実践における I C T 活用を含めた基本的な技能を身につけることができる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 講義により学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容等の全体構造が理解できるようにする。また、授業計画及び学習指導案の作成を指導する。その際、I C T 活用の有用性を理解させるとともに教材の作成・活用技術を指導する。授業においては課題提出とそのフィードバックにより内容の定着を図る。後半には基礎演習を実施し、模擬授業をもとにしたディスカッション（意見交換や分析）及び評価をおこなう。毎時、授業内容に関する質問の時間を設けるとともにメールでも質問に応じ、疑問点を積み残さないようにする。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：オリエンテーション（社会科・公民科の目標及び内容、授業の目的、内容、方法及び評価） | | | |
| 第 2 回：社会科・公民科の歴史的変遷について（1947 年まで） | | | |
| 第 3 回：社会科・公民科の歴史的変遷について（1947 年から） | | | |
| 第 4 回：現在の教育改革と学習指導要領について | | | |
| 第 5 回：授業計画・学習指導案（I C T 活用、学習評価の考え方を含む）の作成と授業における留意点 | | | |
| 第 6 回：教材研究の意義と方法及び授業の方法（パワーポイントの作成を含む） | | | |
| 第 7 回：I C T 機器の基本的操作と授業における利用について（デジタル教科書、NHK for School 等） | | | |
| 第 8 回：学習指導要領解説社会編・公民編の内容と「主体的・対話的で深い学び」について | | | |
| 第 9 回：基礎演習（模擬授業：意見交換及び分析と評価）（中学校公民的分野）政治・経済 | | | |
| 第 10 回：基礎演習（模擬授業：意見交換及び分析と評価）（中学校公民的分野）国際社会 | | | |
| 第 11 回：基礎演習（模擬授業：意見交換及び分析と評価）（高等学校公民科）公共 | | | |
| 第 12 回：基礎演習（模擬授業：意見交換及び分析と評価）（高等学校公民科）倫理、政治・経済 | | | |
| 第 13 回：全体のまとめ、社会科・公民科の教師に期待するもの | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領』 東山書房 | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』 東京書籍 | | | |

『中学社会 公民 ともに生きる』 教育出版
『私たちの公共』 清水書院
『高等学校 新倫理』 清水書院
『高等学校 政治・経済』 清水書院

参考書・参考資料等

各科目の用語集を持っていることが望ましい。

学生に対する評価

課題・レポート、学習指導案、模擬授業の評価、発表等授業参加度（以上 40%）、定期試験（60%）を総合的に判断して評価する。ただし、出席回数が 9 回に満たなかった場合、または模擬授業を行わなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は単位修得を認めない。

| | | | |
|--|---------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 社会科・公民科指導法Ⅱ | 必修科目 | 2 単位 | 藤原 健剛 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけ、実践できる。 | | | |
| 1 社会科・公民科の教科科目の全体像を描きながら、具体的な教材研究の方法を身につけることができる。 | | | |
| 2 生徒の興味・関心を育み、かつ学力の定着を図る実践的な学習指導案を作成することができる。 | | | |
| 3 社会科・公民科教員として、学校現場で求められる授業スキル（ICT 活用を含む）や資質・能力を身につけることができる。 | | | |
| 4 情報を整理・分析し、批判的に検討する力及び議論する力が身につく。 | | | |
| 5 新しい発想や実践を生み出す力が身につく。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の内容について、学習指導要領の趣旨を踏まえて教材研究を深め、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業後、学習指導案や模擬授業の内容・方法について学生相互で批評を行うとともに、担当教員の指導を受けて、受講者全員が実践的な授業スキルと教員としての資質・能力を向上させる。毎時間発表学生に対する評価表の提出を受講生全員に課し、それを集約して担当教員による学習指導案の添削と合わせて発表学生にフィードバックし、それらを参考にして作成した学習指導案・ワークシート・パワーポイント等の完成版を提出させる。また、学習指導要領で求められている「議論する力」を育成するために2回の討論会を実施し、受講生自らの「議論する力」を磨くとともに討論会の運営方法を身につける。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第1回：オリエンテーション（学習指導要領社会科・公民科の目標及び内容の確認、講義の目的・内容・進め方・評価等の説明、模擬授業の実施日程）、教員採用試験専門科目について | | | |
| 第2回：模擬授業の実践と授業研究（中学校社会科公民的分野）政治（ICT の活用） | | | |
| 第3回：模擬授業の実践と授業研究（中学校社会科公民的分野）経済（ICT の活用） | | | |
| 第4回：模擬授業の実践と授業研究（中学校社会科公民的分野）国際社会 | | | |
| 第5回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科公共）青年と自己実現 | | | |
| 第6回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科公共）民主政治と法 | | | |
| 第7回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科公共）現代の経済社会 | | | |
| 第8回：討論会（憲法改正について） | | | |
| 第9回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科倫理）人間としての自覚と生き方 現代社会と倫理（ICT の活用） | | | |
| 第10回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科倫理）日本の風土と外来思想の受容 | | | |
| 第11回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科政治・経済）現代の政治、現代の経済 | | | |
| 第12回：模擬授業の実践と授業研究（高等学校公民科政治・経済）現代社会の諸課題（ICT の活用） | | | |
| 第13回：討論会（国際情勢の変化と日本が果たす役割について）、総括（受講生の今後に望むもの） | | | |
| 定期試験 | | | |

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房
 文部科学省『高等学校学習指導要領』 東山書房
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版社
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』 東京書籍
 『中学社会 公民 とともに生きる』 教育出版
 『私たちの公共』 清水書院
 『高等学校 新倫理』 清水書院
 『高等学校 政治・経済』 清水書院

参考書・参考資料等

各科目の用語集を持っていることが望ましい。

学生に対する評価

模擬授業の評価（20％）、発表等授業参加度（20％）、学習指導案・レポート等（20％）、定期試験（40％）を総合的に判断して評価する。ただし、出席回数が9回に満たなかった場合、または模擬授業を行わなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は単位修得を認めない。

| | | | |
|--|--------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 道徳教育の理論と指導法 | 選択科目 | 2 単位 | 田中 美紀子 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義を考え、道徳教育の内容を把握し、教育の現場における様々な状況を想定しながら、実践的な指導力が身につく。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義では『学習指導要領』に明記される道徳教育の意義と目標、道徳教育の内容、道徳教育の実践を主要な柱として扱う。児童・生徒の発達段階に応じて、道徳心を培うために選択した資料を用いて学習指導案を考案・作成する。それに基づいて模擬授業を行い、実践的能力を養う。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：オリエンテーション、道徳教育の意義 | | | |
| 第 2 回：道徳教育の目標 | | | |
| 第 3 回：道徳教育の内容① A. 自分自身に関すること、B. 人とのかかわり | | | |
| 第 4 回：道徳教育の内容② C. 人とのかかわり(公平、公正、社会正義)、D. 生命、自然、崇高なものとのかかわり | | | |
| 第 5 回：道徳の指導法について、学習教材・資料の分析 | | | |
| 第 6 回：学習指導案の考案・作成 | | | |
| 第 7 回：学習指導案の例 | | | |
| 第 8 回：研究授業鑑賞（DVD）、模擬授業の準備 | | | |
| 第 9 回：道徳教材視聴（DVD）、模擬授業の準備 | | | |
| 第 10 回：模擬授業① 中学 1 年 | | | |
| 第 11 回：模擬授業② 中学 2 年 | | | |
| 第 12 回：模擬授業③ 中学 3 年 | | | |
| 第 13 回：試験、総括および授業に関する反省と評価 | | | |
| テキスト | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 学習指導案と模擬授業（20％）、模擬授業観察シートの提出（12％）、筆記試験（68％）及び授業態度等を総合的に評価。 | | | |

| | | | |
|---|--------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 学校観察実習 A | 選択科目 | 2 単位 | 宮垣 覚 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校での体験実習とその活動記録を作成し、体験の反省と試行を行いながら、児童生徒との関わり方を学び、教師を目指しての実践力の向上と教師観の構築を図る。主に基礎的な学習を目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>神戸市をはじめ、各市町で実施されている学校ボランティア事業と連携し、学校現場で教職員から指導を受けながら、児童生徒との関わり方を学び、児童生徒理解力や実践的指導力を身につける。どうしても教師になりたいという希望を持っており、週に1日か半日の空き時間のある学生が受講可能である。履修前年度末または履修年度始めに説明会を実施する。</p> <p>また、大学においても学校現場での教員経験のあるものが、その経験を生かして具体的な対応を指導助言する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接による意思確認 ・オリエンテーション ・学校現場での活動（5月末から開始、週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・学校現場での活動（週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・まとめの報告会と指導助言 | | | |
| <p>テキスト</p> <p>活動校での資料、必要に応じて作成</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>活動時間数（40%）、取組姿勢（30%）、実習記録等（30%）</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 学校観察実習B | 選択科目 | 2単位 | 宮垣 覚 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校での体験実習とその活動記録を作成し、体験の反省と試行を行いながら、児童生徒との関わり方を学び、教師を目指しての実践力の向上と教師観の構築を図る。学校観察実習Aを基礎として、不十分であった事項を整理し、実践力の上積み、さらなる充実を図る。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>神戸市をはじめ、各市町で実施されている学校ボランティア事業と連携し、学校現場で教職員から指導を受けながら、児童生徒との関わり方を学び、児童生徒理解力や実践的指導力を身につける。どうしても教師になりたいという希望を持っており、週に1日か半日の空き時間のある学生が受講可能である。履修前年度末または履修年度始めに説明会を実施する。</p> <p>また、大学においても学校現場での教員経験のあるものが、その経験を生かして具体的な対応を指導助言する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接による意思確認 ・オリエンテーション ・学校現場での活動（5月末から開始、週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・学校現場での活動（週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・まとめの報告会と指導助言 | | | |
| <p>テキスト</p> <p>活動校での資料、必要に応じて作成</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>活動時間数（40%）、取組姿勢（30%）、実習記録等（30%）</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 学校観察実習C | 選択科目 | 2単位 | 宮垣 覚 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校での体験実習とその活動記録を作成し、体験の反省と試行を行いながら、児童生徒との関わり方を学び、教師を目指しての実践力の向上と教師観の構築を図る。学校観察実習A・Bを基礎として、不十分であった事項を整理し、実践力の上積み、さらなる充実を図る。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>神戸市をはじめ、各市町で実施されている学校ボランティア事業と連携し、学校現場で教職員から指導を受けながら、児童生徒との関わり方を学び、児童生徒理解力や実践的指導力を身につける。どうしても教師になりたいという希望を持っており、週に1日か半日の空き時間のある学生が受講可能である。履修前年度末または履修年度始めに説明会を実施する。</p> <p>また、大学においても学校現場での教員経験のあるものが、その経験を生かして具体的な対応を指導助言する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接による意思確認 ・オリエンテーション ・学校現場での活動（5月末から開始、週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・学校現場での活動（週1回程度） ・中間報告会と指導助言 ・まとめの報告会と指導助言 | | | |
| <p>テキスト</p> <p>活動校での資料、必要に応じて作成</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>活動時間数（40%）、取組姿勢（30%）、実習記録等（30%）</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 介護等体験 | 選択科目 | 1 単位 | 宮本 晃郎 |
| | | | 担当形態： |
| | | | オムニバス |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 義務教育に従事予定の教員志望者が、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上に努める。そのために、障がい者・高齢者との関わり方について体験を通して学ぶ。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 事前指導では、施設等の状況、介護等体験の意義、心構え、社会福祉、高齢者福祉等を学ぶ。また、実習では、特別支援学校・社会福祉施設等で、当該職員の指導を受けながら、障がい者・高齢者等との関わり方について、体験を通して学ぶ。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 事前指導 | | | |
| ・オリエンテーション（宮本） | | | |
| ・社会福祉の動向と介護等体験の意義について（ゲストスピーカーA） | | | |
| ・特別支援教育の指導の実際について（ゲストスピーカーB） | | | |
| ・障がい者施設等の状況について（ゲストスピーカーC） | | | |
| ・高齢者福祉施設の介護について（ゲストスピーカーD） | | | |
| ・体験上の心構えについて（宮本） | | | |
| ・申請手続き説明会（宮本） | | | |
| 現場体験実習 | | | |
| ・社会福祉施設等での体験実習（5日間） | | | |
| ・特別支援学校での体験実習（2日間） | | | |
| 事後指導 | | | |
| ・まとめと反省（宮本） | | | |
| テキスト | | | |
| 全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジヤース教育新社 | | | |
| 増田 雅暢（執筆代表者）『第5版 よくわかる社会福祉施設 ―教員免許志願者のためのガイドブック』全国社会福祉協議会 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 実習体験記録（40％）、取組姿勢（40％）、レポート等（20％） | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 日本国憲法 | 必修科目 | 2 単位 | 七野 敏光 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 日本国憲法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 日本国憲法の基礎的理解 | | | |
| 授業の概要 一般に法令は、「法定速度を守れ」「税を納めよ」というような国の国民に対する命令である。これに反して、ただ憲法だけが「国は国民の言論の自由を侵してはならない」というように、国や公共機関に対する命令なのである。 17 世紀の英国は、世界で初めて憲法という国家権力制限システムをつくりあげた。以来、多くの犠牲や辛苦をへて、それまで抵抗できなかった国家権力を制限する画期的なシステムは世界中に広がってきた。 憲法を学ぶことは、条文を暗記することではない。現実の中で、憲法の実態はいつも変化しているのであって、条文を知るだけでなく、条文の働きを見る必要があるのである。 講義ではなるべく具体的に、現実の問題のなかで憲法を考えていきたい。 | | | |
| 授業計画 (105 分×13 週) 第 1 回：憲法と国家 第 2 回：人権、個人の尊重 第 3 回：平等 第 4 回：思想良心の自由・信教の自由 第 5 回：表現の自由 第 6 回：人身の自由 第 7 回：経済活動の自由 第 8 回：生存権 第 9 回：教育と労働の権利 第 1 0 回：国民主権と象徴天皇制 第 1 1 回：国会・内閣・裁判所 第 1 2 回：地方自治、平和主義 第 1 3 回：試験、まとめ | | | |
| テキスト 山田勉・笹田哲男編『新時代の法学・憲法』建帛社 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 筆記試験(100%) | | | |

| | | | |
|--|------------------------------|------------------|---|
| 授業科目名： 基礎トレーニング | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1 単位 | 担当教員名： 関 和俊、三浦 敬太、 大崎 健太、栗田 昇平、 金谷 和幸、大松 敬子、 住本 純、西山 清子 担当形態： クラス分け |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 体育 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。 | | | |
| 授業の概要 個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。 | | | |
| 授業計画 (105 分×13 週) 第 1 回：オリエンテーション（施設・設備の使い方等） 第 2 回：ストレッチングの意義とその効果について 第 3 回：各部位のストレッチング方法を習得する 第 4 回：ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト 第 5 回：レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト 第 6 回：各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト 第 7 回：自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト 第 8 回：目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息时间、テスト法について／基礎体力づくり①（筋力） 第 9 回：目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息时间、テスト法について／基礎体力づくり②（全身持久力） 第 10 回：トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①（柔軟性） 第 11 回：トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②（敏捷性） 第 12 回：基礎体力づくり 第 13 回：まとめ | | | |
| テキスト プリント配付 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 実技（50％）、受講態度・課題レポート（50％） | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|------|------------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| スポーツと健康の科学 | 必修科目 | 2単位 | 関 和俊、西山 清子 |
| | | | 担当形態： |
| | | | クラス分け |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・体育 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。 | | | |
| 授業計画（105分×13週） | | | |
| 第1回：人口の動向と少子・高齢化社会 | | | |
| 第2回：健康と体力 | | | |
| 第3回：健康教育 | | | |
| 第4回：運動と健康 | | | |
| 第5回：栄養と健康 | | | |
| 第6回：睡眠と健康 | | | |
| 第7回：運動不足と生活習慣病 | | | |
| 第8回：健康長寿と介護予防 | | | |
| 第9回：ウエイトコントロールとトレーニング | | | |
| 第10回：感染症について | | | |
| 第11回：救命救急法 | | | |
| 第12回：妊娠と出産 | | | |
| 第13回：心と健康、ストレス | | | |
| テキスト | | | |
| プリント配布 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| なし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 試験・課題レポート（50%）、授業態度（50%） | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|------|--|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 外国語コミュニケーションⅠ | 必修科目 | 1 単位 | R. コナース、S. ルミナテ、J. スチュアート、S. アナト、D. ギルビン、J. シクレア、前田葵、M. メネ、E. ロー |
| | | | 担当形態： |
| | | | クラス分け |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 外国語コミュニケーション | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| Remedial study toward the enhancement of practical English skills | | | |
| 実践的英語運用能力の獲得 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society. | | | |
| 本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。 | | | |
| 授業計画 (105 分×13 週) | | | |
| 第 1 回：Introduction | | | |
| 導入 | | | |
| 第 2 回：conversation skills(1)： opening | | | |
| 会話スキル(1)： 切り出し | | | |
| 第 3 回：conversation skills(2)： exchanges | | | |
| 会話スキル(2)： やりとり | | | |
| 第 4 回：conversation skills(3)： politeness | | | |
| 会話スキル(3)： ポライトネス | | | |
| 第 5 回：speech skills(1)： choosing topics | | | |
| スピーチスキル(1)： トピックの選択 | | | |
| 第 6 回：speech skills(2)： organization | | | |
| スピーチスキル(2)： 構成 | | | |
| 第 7 回：speech skills(3)： students’ speeches | | | |
| スピーチスキル(3)： 受講生によるスピーチ | | | |
| 第 8 回：Mid-term review (including a mini-exam) | | | |
| ここまでの復習 (小テストを含む) | | | |
| 第 9 回：presentation skills(1)： choosing topics | | | |
| プレゼンテーションスキル(1)： トピックの選択 | | | |
| 第 1 0 回：presentation skills(2)： organization | | | |

| |
|--|
| <p>プレゼンテーションスキル(2): 構成</p> <p>第11回: presentation skills(3): material preparation</p> <p>プレゼンテーションスキル(3): 題材の準備</p> <p>第12回: presentation skills(4): physical message</p> <p>プレゼンテーションスキル(4): 体を使ったメッセージ発信</p> <p>第13回: presentation skills(5): audience engagement</p> <p>プレゼンテーションスキル(5): 受講生によるプレゼンテーション</p> |
| <p>テキスト</p> <p>Milada Broukal 『What A World Reading 1: Amazing Stories from Around The Globe』 Longman</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>授業参加度（発言等） 40%、口頭発表 30%、小テスト 30%</p> |

| | | | |
|--|------------------------------|------|--|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 外国語コミュニケーションⅡ | 必修科目 | 1 単位 | R. コナズ、S. ルクミナー、J. スチュアート、S. アナト、D. ギルビン、J. シンクレア、前田葵、M. メリネ、E. ロー |
| | | | 担当形態： クラス分け |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 外国語コミュニケーション | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English 日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society. 本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。 | | | |
| 授業計画 (105 分×13 週) | | | |
| 第 1 回：Introduction 導入 | | | |
| 第 2 回：background(1)：register/style/genre 予備知識(1)：レジスター／スタイル／ジャンル (前半) | | | |
| 第 3 回：background(2)：register/style/genre(continued) 予備知識(2)：レジスター／スタイル／ジャンル (後半) | | | |
| 第 4 回：background(3)：politeness 予備知識(3)：ポライトネス | | | |
| 第 5 回：advanced speech skills(1)：persuasive speeches 上級スピーチスキル(1)：説得スピーチ | | | |
| 第 6 回：advanced speech skills(2)：longer speeches 上級スピーチスキル(2)：より長めのスピーチ | | | |
| 第 7 回：advanced speech skills(3)：students’ speeches 上級スピーチスキル(3)：受講生によるスピーチ | | | |
| 第 8 回：Mid-term review (including a mini-exam) ここまでの復習 (小テストを含む) | | | |
| 第 9 回：advanced presentation skills(1)：longer, more detailed presentations 上級プレゼンテーションスキル(1)：より長く、詳しいプレゼンテーション | | | |
| 第 10 回：advanced presentation skills(2)：questions and answers 上級プレゼンテーションスキル(2)：質疑応答の仕方 | | | |

| |
|---|
| <p>第11回: advanced presentation skills(3): students' presentations 上級プレゼンテーションスキル(3): 受講生によるプレゼンテーション</p> <p>第12回: discussion skills(1): basics of argument ディスカッションスキル(1): 議論の基礎・補強</p> <p>第13回: Overall review 総まとめ</p> |
| <p>テキスト</p> <p>Milada Broukal 『What A World Reading 1: Amazing Stories from Around The Globe』 Longman</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>授業参加度（発言等） 40%、口頭発表 30%、小テスト 30%</p> |

| | | | |
|--|-----------------------------------|------------------|--|
| 授業科目名： 情報A | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 竹田和恵、黒田昌克、山下義史 担当形態： クラス分け |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 授業を通して、次のことを目標とします。 ①Windows パソコンのカスタマイズ、基本操作ができる ②ワードを使って文書処理ができる ③表計算ソフト Excel を使って基本的なデータ処理ができる ④インターネットを適切に利用できる | | | |
| 授業の概要 高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windows システムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。 | | | |
| 授業計画 (105 分×13 週) 第 1 回：本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得 第 2 回：インターネット、タッチタイピング 第 3 回：電子メール、文書作成の基礎 第 4 回：情報モラル、ページ設定と文書の印刷 第 5 回：情報セキュリティ、文書の編集 第 6 回：コンピュータのハードウェア、表の作成 第 7 回：コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い 第 8 回：データサイエンス入門 1：表計算の基礎 第 9 回：データサイエンス入門 2：表計算の参照方式 第 1 0 回：データサイエンス入門 3：関数 第 1 1 回：データサイエンス入門 4：基本統計 第 1 2 回：データサイエンス入門 5：データ集計と可視化 第 1 3 回：まとめ | | | |
| テキスト なし | | | |
| 参考書・参考資料等 杉本くみ子、大澤栄子『30 時間アカデミック office2021』実教出版 | | | |
| 学生に対する評価 タイピング（10％）、課題（70％）、最終レポート（20％） | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教育原理 | 必修科目 | 2 単位 | 山内 紀幸 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 1 教育概念や教師—子ども関係について、基本的な知識を身に付けている。 | | | |
| 2 西洋や日本の教育史や教育思想について、基礎的な事項を理解している。 | | | |
| 3 授業論や学び論について、概念的に把握している。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本授業では、教育を巡る様々な概念（教育、学習、子ども、教師、人間形成）について講義した後に、西洋の教育史、西洋の教育思想家の教育思想について理解させる。その後、日本の教育史を学ばせ、現代の教育問題や授業論や学び論について基本的な事項を習得させる。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：教育の基本理念—語源・目的・目標 | | | |
| 第 2 回：教師と子どもの臨床哲学—信頼される教師 | | | |
| 第 3 回：人間形成の理論①—エリオット先生の差別授業 | | | |
| 第 4 回：人間形成の理論②—デーケンの悲嘆のプロセス | | | |
| 第 5 回：古代ギリシアの教育—スパルタとアテネ | | | |
| 第 6 回：西洋の子ども観—子ども期の発見・近代家族の成立 | | | |
| 第 7 回：西洋教育思想①—ソクラテス・コメニウス・ロック・ルソー | | | |
| 第 8 回：西洋教育思想②—ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル・ケイ・デューイ・モンテッソーリ・パーカスト | | | |
| 第 9 回：日本の子ども観—子宝思想の誕生 | | | |
| 第 1 0 回：近代教育制度の成立—森有礼と元田永孚 | | | |
| 第 1 1 回：戦後日本教育史—学習指導要領と教育問題 | | | |
| 第 1 2 回：授業論—学びの楽しさを生み出す授業原理 | | | |
| 第 1 3 回：学びの空間論—学びのスタイルと学習空間 | | | |
| テキスト | | | |
| 山内紀幸『ちょっと変わった校長式辞集：教育哲学者からのメッセージ』—藝社 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 今井康雄（編）『教育思想史』有斐閣 | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 授業後の小テスト（70%）と課題提出（30%）。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教職論 | 必修科目 | 2 単位 | 宮垣 覚 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義や役割、資質能力、職務内容等を概観する。また、期待される教職像を探究し、教職の適性を考え、教職への基礎づくりを行う。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 変化する社会情勢と教育動向を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」何かを考える。そして、教育関係法規や学習指導要領などをもとに公教育の重要性を理解し、教職に求められる資質・能力について考え、将来の教職像を明らかにしていく。また、最新の教育課題を事例研究で学び、現場の厳しさにも目を向けて、幅広い視野と強い責任感が求められることを意識したい。その際、現場経験（校長、教諭）や教育委員会事務局、教育研修所等の経験も活かして、今日的課題への対応についてともに考えたい。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：教育の目的と意義・役割 | —人間にとっての教育・忘れられない魅力的な教師— | | |
| 第 2 回：学校教育と教職の意義等 | —家庭教育との違い・学校の種類・教育関係法規— | | |
| 第 3 回：公教育を担う教職への道 | —公務員と民間の違い・教育公務員・教員免許— | | |
| 第 4 回：教職の役割及び資質能力 | —聖職者・労働者・専門職としての教職観の変遷— | | |
| 第 5 回：教員の資質能力の構造化 | —新たな専門職的教職観・学習指導と生徒指導等— | | |
| 第 6 回：これからの授業力の向上 | —素材研究・教材研究・発問や板書・I C T活用— | | |
| 第 7 回：これからの指導力の向上 | —生徒指導・健康安全指導・特別支援教育の視点— | | |
| 第 8 回：これからの教師力の向上 | —行事・校務分掌・保護者対応・関係機関連携等— | | |
| 第 9 回：信頼される学校力の向上 | —情報発信・地域連携・学校評価・教育課程編成— | | |
| 第 1 0 回：教育公務員としての教職 | —教員採用・研修・教員としてのライフサイクル— | | |
| 第 1 1 回：教育新時代における教職 | —新たな教育課題・幅広い知見と「チーム学校」— | | |
| 第 1 2 回：学び続ける教師への期待 | —若手教員の輝きと苦悩・自分自身の適性と力点— | | |
| 第 1 3 回：まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| レジメ・資料を作成して配付する | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 随時指示する。 | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 毎時間のレポート課題（50%）・グループ討議や発表（30%）・まとめの試験（20%） | | | |

| | | | |
|--|--|------|-------------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教育の制度と経営 | 必修科目 | 2 単位 | 山下 晃一、高橋みづき |
| | | | 担当形態： |
| | | | クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 教職に必要なとなる教育の制度と経営に関する基本的かつ多様な知識・考え方を修得する。 教育の制度と経営をめぐる諸学説等を用いて、自分の教育経験を客観的に理解できる。 教育の制度と経営の知識や考え方を基に、現代教育課題について論理的に思考できる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| いかにすぐれた教育の思想も実践も、現代社会においては「制度」となることによって、はじめて広く実現される。そうして作られた学校制度は、教職員を含む実にさまざまな人々の知恵と工夫で動かされる＝「経営」されることによって、はじめて高い効果を発揮する。 本講義では複雑化する教育課題をふまえて、これからの教師そして国民全体に必要な、教育の制度や経営に関する知識の習得をめざすとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教育制度・教育経営に向き合う力量の基礎を培う。とくに学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：教育の制度と経営の基礎（1） 一公教育の制度と教育法規一 | | | |
| 第 2 回：教育の制度と経営の基礎（2） 一憲法・教育基本法一 | | | |
| 第 3 回：教育の制度と経営の基礎（3） 一日本の学校体系一 | | | |
| 第 4 回：教育行政の組織と役割（1） 一国と地方の教育行政一 | | | |
| 第 5 回：教育行政の組織と役割（2） 一教育委員会の理想一 | | | |
| 第 6 回：教員を支える制度（1） 一公立学校教員の立場一 | | | |
| 第 7 回：教員を支える制度（2） 一教員の研修・評価一 | | | |
| 第 8 回：教員を支える制度（3） 一教科書制度の概要一 | | | |
| 第 9 回：現代学校経営の課題（1） 一学校における個業と協業一 | | | |
| 第 1 0 回：現代学校経営の課題（2） 一開かれた学校づくり一 | | | |
| 第 1 1 回：現代学校経営の課題（3） 一安全・安心の学校づくり一 | | | |
| 第 1 2 回：現代学校経営の課題（4） 一学級経営の論点一 | | | |
| 第 1 3 回：講義のまとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 古田薫 編著『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特に指定しない（講義中に紹介する） | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 講義各回に提出する小レポート 60%、期末試験（またはレポート課題）40%。 小レポートについて、講義中の説明に即して、教育の制度と経営に関する基本的論点を、どの程度、正確に理解できているか、また、講義で説明した事例などについて、自分なりの分析や考えを的確に述べる事ができているか等の観点から評価する。 | | | |

期末試験について、講義中の説明をどの程度、理解できているか、また、それらを用いてどの程度、的確に、自分なりに教育の制度と経営をめぐる諸課題に対して見解を述べるができるか等の観点から評価する。

フィードバックについて、各回の小レポートおよびコメントを抜粋し、それぞれ次の回の講義冒頭時に説明・紹介する。

| | | | |
|--|--------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教育心理学 | 必修科目 | 2 単位 | 久木山 健一 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| ・ 教育活動の中での心理学の有効性の理解 | | | |
| ・ 今自分が受けている教育の意義の理解 | | | |
| ・ 過去自分が受けてきた教育の影響の理解 | | | |
| ・ 学習活動を支えるさまざまな心理的要因の理解 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本授業では教育という現象を心理学的に理解できるようになることを目標として教育心理学のさまざまな理論を概観します。その際、単に理論を知識として学ぶだけでなく、過去から現在までに自分が体験してきた教育活動と関連づけて修得できることを目指します。学習過程、動機づけ、知能と学力、教室の仲間関係、教師と生徒の関係、教育評価などの基礎的な知識に加え、いじめ、不登校などの学校不適応への対応や、心身障害児への対応などの理解も目指します。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：教育心理学とは（意義、他の学問とのかかわり、研究法など） | | | |
| 第 2 回：発達（基本的法則、発達の要因、ピアジェ、エリクソンなど） | | | |
| 第 3 回：学習（定義、条件づけ、行動分析、社会的学習、認知論など） | | | |
| 第 4 回：動機づけ（コンピテンス、種類、原因帰属、自己調整学習など） | | | |
| 第 5 回：知能・記憶・メタ認知（定義、知能テストの種類、記憶、メタ認知など） | | | |
| 第 6 回：教授学習過程（授業形態、授業構造、有意味受容学習と発見学習など） | | | |
| 第 7 回：教育評価（意義、通知表、評価の時期と方法、相対・絶対評価など） | | | |
| 第 8 回：教師（好まれる教師像、ビリーフ、リーダーシップ、ピグマリオン効果など） | | | |
| 第 9 回：仲間関係（遊びの発達、仲間関係の理解法、児童期・青年期の仲間関係など） | | | |
| 第 1 0 回：パーソナリティ（定義、類型論、特性論、性格検査の種類など） | | | |
| 第 1 1 回：学校における不適応（いじめ、非行、不登校、学級集団の荒れなど） | | | |
| 第 1 2 回：ストレスと健康（ストレス過程、学校ストレス、PTSD、摂食行動など） | | | |
| 第 1 3 回：発達障害と特別支援教育（種類、特別支援教育、ユニバーサルデザインなど） | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| 神藤貴昭・久木山健一『三訂版 ようこそ教育心理学の世界へ』北樹出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 適宜指摘する | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 毎回の小テストおよび授業の感想の提出，定期試験などによって行います。 | | | |
| 小テストおよび授業の感想（3 割），定期試験（7 割）で成績評価します。 | | | |
| ただし，定期試験が実施できない場合は，小テストおよび授業の感想（7 割），最終レポート課題（3 割）で成績評価を行います。 | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 特別支援教育 | 必修科目 | 2 単位 | 岡村 章司 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 | | | |
| 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 | | | |
| 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：特別支援教育の理念 | | | |
| 第 2 回：学校における特別支援教育：教育課程 | | | |
| 第 3 回：インクルーシブ教育システム | | | |
| 第 4 回：LD の特性理解 | | | |
| 第 5 回：ADHD の特性理解 | | | |
| 第 6 回：ASD の特性理解 | | | |
| 第 7 回：個別の指導計画と個別の教育支援計画 | | | |
| 第 8 回：特別な教育的ニーズに応じた指導 | | | |
| 第 9 回：特別な教育的ニーズに応じた指導の実際 | | | |
| 第 1 0 回：小学校等の校内支援体制 | | | |
| 第 1 1 回：母国語や貧困、抑うつの問題等による多様な特別な教育的ニーズ | | | |
| 第 1 2 回：通常の学級における特別支援教育 | | | |
| 第 1 3 回：保護者や関係機関との連携 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| 授業中に資料を配布します | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 柘植雅義・渡部匡隆他編著『はじめての特別支援教育』有斐閣 | | | |
| 渡部匡隆・岡村章司『自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム』学苑社 | | | |
| 井上雅彦・三田地真実・岡村章司『応用行動分析入門ハンドブック』金剛出版 | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 試験（70％）、講義・演習への取り組みの状況（30％） | | | |

| | | | |
|--|------------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教育課程論 | 必修科目 | 2 単位 | 宮垣 覚 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。 | | | |
| 学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やG I G Aスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会（コミュニティ・スクール構想）も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第1 回：「教育課程」が急速に注目され出した背景とは何か | | | |
| 第2 回：「教育課程」の具体的な種類と内容、方法とは何か | | | |
| 第3 回：「学習指導要領の変遷」に学ぶ教育課程の意義とは何か | | | |
| 第4 回：「学習指導要領改訂」の考え方と要点は何か | | | |
| 第5 回：「G I G Aスクール構想」等で教育課程はどう変わるのか | | | |
| 第6 回：「教科書の変遷」が教育課程に与えた影響は何か | | | |
| 第7 回：「特色ある教育活動」が生まれてくる根本要因は何か | | | |
| 第8 回：「学校行事の変化」が教育課程に与えた影響は何か | | | |
| 第9 回：「健全育成等の他の要因」が教育課程に与えた影響は何か | | | |
| 第1 0 回：「教育課程実施状況調査」の現状における課題は何か | | | |
| 第1 1 回：「新たな学校評価」のあり方と教育課程編成の関係は何か | | | |
| 第1 2 回：「カリキュラム・マネジメント」が機能するかどうかの分岐点は何か | | | |
| 第1 3 回：まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 柴田義松編著『教育課程論』学文社 | | | |
| 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |

学生に対する評価

- ・ 1～12 回 10 分程度のミニレポート (60%)
- ・ 1～12 回 授業中のグループワーク・スピーチ等 (20%)
- ・ 13 回目 まとめのレポート (20%)

| | | | |
|--|-------------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 総合的な学習の時間の指導法 | 必修科目 | 2 単位 | 溝邊 和成 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | ・ 総合的な探究の時間の指導法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 小・中・高等学校学習指導要領に示された総合的な学習（探究）の時間の目標および内容をはじめ、教育課程上の位置付けや他教科等との関連をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習の指導のあり方について理解を深める。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 小・中・高等学校学習指導要領に示された総合的な学習（探究）の時間の特徴に係るテーマについて、講義とともに演習形式（グループワークやプレゼンテーション、スキルアップワークなど）を取り入れ、理解の充実と具体的な指導力向上をめざす。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：本講義の特徴と授業計画の提示（講・演）～ラーニングストーリーの自覚～ スキルアップワーク（自己紹介・他者紹介）「総合的な学習の時間と私」 | | | |
| 第 2 回：「総合的な学習（探究）の時間」の成立とその変遷（講・演）～体験した授業から見る特徴～ スキルアップワーク（発表、分類・関係付け）「出身校における取り組み」 | | | |
| 第 3 回：「総合的な学習（探究）の時間」の成立とその変遷（講・演）～学習指導要領から見る特徴～ グループワーク（ジグソー法の活用）「学習指導要領上に見られる特徴とその変化」 | | | |
| 第 4 回：「総合的な学習（探究）の時間」の源流（講・演）～総合学習につながる実践（国内編）～ スキルアップワーク（情報検索・編集）「国内に見られる総合学習」 | | | |
| 第 5 回：「総合的な学習（探究）の時間」の源流（講・演）～総合学習につながる実践（外国編）～ スキルアップワーク（編集・報告）「諸外国における総合学習」 | | | |
| 第 6 回：「総合的な学習（探究）の時間」の事例探究（演）～総合的な学習の時間におけるテーマ～ グループワーク（テーマ選択）「例：環境・福祉・キャリア・情報・経済・遺産等」 | | | |
| 第 7 回：「総合的な学習（探究）の時間」の事例探究（演）～プレゼンテーションのためのスキルとその活用～ グループワーク（ICT 操作）「プレゼンテーションの準備（発表用資料作成、リハーサル等）」 | | | |
| 第 8 回：「総合的な学習（探究）の時間」の事例探究（演）～発表形式と内容省察の観点～ プレゼンテーション（ICT 活用、サークル対話：リフレクション）「発表と省察」 | | | |
| 第 9 回：「総合的な学習（探究）の時間」の実践上の課題とその対策（講・演） ～カリキュラムマネジメント「年間指導計画・教科横断・探究プロセス」への工夫～ グループワーク（共同作成モデル）「教科横断型、探究型」「年間指導計画」 | | | |
| 第 1 0 回：「総合的な学習（探究）の時間」の実践上の課題とその対策（講・演）～教材開発の視点とそのアクセス～ スキルアップワーク（ブレイン・ストーミング、KJ 法）「教材開発・教材分析」 | | | |
| 第 1 1 回：「総合的な学習（探究）の時間」の実践上の課題とその対策（講・演） ～指導・評価スキルの内容と活用～ スキルアップワーク（資料分析）「指導上の留意事項、評価」 | | | |
| 第 1 2 回：「総合的な学習（探究）の時間」の学習指導案（講・演） ～アクティブラーニング | | | |

| |
|---|
| <p>を支援する指導案の試み～ スキルアップワーク（思考の可視化）「形式とその意図」</p> <p>第13回：本講義のまとめ（講・演）～ラーニングストーリーの整理～ スキルアップワーク（リフレクション）「自らの学びに対する成果と課題」</p> |
| <p>テキスト</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』 https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』 https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf</p> <p>文部科学省（2021）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（小学校編）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20210729-mxt_kouhou02_1.pdf</p> <p>文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（中学校編）』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20220426-mxt_kouhou02-2.pdf</p> <p>朝倉淳・永田忠道（2019）『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』学術図書出版</p> <p>稲井達也編著（2019）『高等学校「探究的な学習」実践カリキュラム・マネジメント 一導入のための実践事例23—』学事出版</p> <p>吉田卓司・長谷川精一・奥野浩之編（2021）『総合的な学習/探究の時間の実践研究』溪水社</p> <p>原田恵理子・森山賢一編著（2021）『最新 総合的な学習（探究）の時間』大学教育出版</p> <p>佐藤浩章編著（2021）『高校教員のための探究学習入門—問いからはじめる7つのステップ—』ナカニシヤ出版</p> <p>佐藤功編著（2021）『現場発！高校「総合探究」ワークを始めよう』学事出版</p> <p>田村学監修・廣瀬志保編著（2022）『高校生のための「探究」学習図鑑』学事出版</p> <p>佐藤淳平（2023）『探究的な学びデザイン 高等学校 総合的な探究の時間から教科横断まで』明治図書出版</p> <p>伊藤実歩子編著（2023）『変動する総合・探究学習』大修館書店</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>出席レポート提出（15%）、課題（スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション）レポート・作品等提出（65%）、授業中の態度（20%）とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。</p> <p>（評価基準）</p> <p>出席レポート：講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている（A）（B）（C）</p> <p>課題（スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション）レポート・作品等：自分が調べてきたことや自分の考えをもとにしつつ、他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している（A）（B）（C）</p> <p>授業中の態度：自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている（A）（B）（C）</p> |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|----------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 特別活動の指導法 | 必修科目 | 2 単位 | 佐藤 浩樹 |
| | | | 担当形態： |
| | | | クラス分け・単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 特別活動の指導法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 学校教育全体における特別活動の意義、目標および内容を理解する。 特別活動の指導のあり方について理解する。 | | | |
| 授業の概要 前半は、特別活動の意義、目標、内容、歴史、位置付け、心理学的基礎を踏まえた指導原理について事例を取り上げて解説する。後半は、特別活動における各活動の内容と指導、評価、家庭・地域・関係機関との連携について演習を取り入れて授業を行う。学級活動においては、話し合い活動や意思決定の重要性を取り上げ、学習指導案の作成・発表を行う。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第 1 回：特別活動とは何か①（意義、目的、内容） 第 2 回：特別活動とは何か②（歴史的変遷、教育課程における位置付け） 第 3 回：特別活動の心理学的基礎①（集団活動論） 第 4 回：特別活動の心理学的基礎②（リーダーシップ論） 第 5 回：部活動の指導と課題指導 第 6 回：生徒会活動の内容と指導 第 7 回：学級活動の内容と指導①学級活動における話し合い活動 第 8 回：学級活動の内容と指導②学級活動の学習指導案の作成・発表 第 9 回：学級活動とキャリア教育 第 10 回：学校行事の内容とあり方 第 11 回：学校行事の指導と諸課題 第 12 回：中学校の特別活動の実際（外部講師） 第 13 回：特別活動の評価、他の教育活動との関連、家庭・地域との連携 | | | |
| テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房 | | | |
| 参考書・参考資料等 渡部邦雄，緑川哲夫，桑原憲一『特別活動指導法』日本文教出版 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』 | | | |
| 学生に対する評価 授業態度 30%、レポート 10%、テスト 60%。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|----------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 特別活動の指導法 | 必修科目 | 2 単位 | 長瀬 善雄 |
| | | | 担当形態： |
| | | | クラス分け・単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・特別活動の指導法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 1．特別活動の教育的意義について理解している。 | | | |
| 2．特別活動の目標及び各活動・学校行事の目標と内容を理解している。 | | | |
| 3．生徒指導、教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連について理解している。 | | | |
| 4．教育課程全体で取組む特別活動の指導の在り方を考え、実践的な指導力を身に付けている。 | | | |
| 5．特別活動における評価の考え方及び指導の改善の方法を理解している。 | | | |
| 6．特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 特別活動は各活動・学校行事などの様々な構成の集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。これらの活動を通して生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能している。そこでの集団活動を通して育まれる資質・能力は、社会に出た後の多様な集団や人間関係の中で生かされていくこととなる。これらを踏まえ学習指導要領に示された目標及び内容について理解を図るとともに、学校教育全体における特別活動の意義について考察する。また、特別活動で目指す資質・能力については、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を基に学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事などを通して培われる資質・能力の理解を図るとともに、多様な集団活動を通して学校生活の諸課題の解決方法としての合意形成や自治的な能力、また、主権者として積極的に社会参画する力を育成することの意味について考察する。そして、現在の学校教育における現代的な諸課題の解決と特別活動との関連を考察し、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けることの重要性を認識できる学修にする。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：特別活動の歴史的変遷 | | | |
| 第 2 回：特別活動の目標から観た教育活動全体における意義 | | | |
| 第 3 回：学級活動・ホームルーム活動及び生徒会活動の内容と指導 | | | |
| 第 4 回：人間形成と特別活動 | | | |
| 第 5 回：特別活動における「主体的・対話的で深い学び」と目指す資質・能力 | | | |
| 第 6 回：特別活動と生徒指導、各教科、総合的な学習（探究）の時間、道徳などとの関連 | | | |
| 第 7 回：学校行事の指導と家庭・地域との連携 | | | |
| 第 8 回：体験活動の言語化と特別活動における評価の考え方 | | | |
| 第 9 回：学級・ホームルーム活動（1）学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画の模擬実践と考察① | | | |
| ・学級・ホームルームや学校における生活上の諸課題の解決 | | | |
| 第 10 回：学級・ホームルーム活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全の模擬実践と考察② | | | |
| ・思春期・青年期の悩みや課題とその解決及び国際理解と国際交流の推進 | | | |
| 第 11 回：学級・ホームルーム活動（3）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全の模擬実践と考察③ | | | |
| ・生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 | | | |
| 第 12 回：学級・ホームルーム活動（4）一人一人のキャリア形成と自己実現の模擬実践と考察④ | | | |
| ・社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 | | | |

| |
|-------------|
| 第13回：試験、まとめ |
|-------------|

| |
|------|
| テキスト |
|------|

| |
|--|
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』東京書籍 |
|--|

| |
|-----------|
| 参考書・参考資料等 |
|-----------|

| |
|----------------|
| 授業中に適宜資料を配付する。 |
|----------------|

| |
|---------------------------------------|
| 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社 |
|---------------------------------------|

| |
|--|
| 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版社 |
|--|

| |
|----------|
| 学生に対する評価 |
|----------|

| |
|--|
| 主体的な学修態度（10%）、学習指導案・模擬実践・レポート（40%）、試験（50%） |
|--|

| | | | |
|---|---------------------------------------|------------------|--------------------------------|
| 授業科目名： 教育の方法及び技術 （情報通信技術の活用を含む） | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 黒田 昌克 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 教育の方法及び技術 ・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 基礎的な教育方法や技術を理解し、基礎的な教育における情報通信技術の活用能力を身につける。 | | | |
| 授業の概要 第1回から第 6 回までは、授業設計（インストラクショナルデザイン）に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術等を学びます。第7回から第 13 回では、教育における情報通信技術を活用するための理論や方法及び具体的な事例を知り、情報端末に触れながら情報通信技術を活用するための講義・演習を行います。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） 第1回：これからの子どもたちに育みたい資質・能力 第2回：教師に求められる授業力 第3回：授業をつくるということ。授業づくりのプロセス 第4回：授業評価をデザインする・目標・指導・評価の一体化の意義 第5回：学習環境のデザイン・授業企画書の発表会 第6回：授業を支える指導技術・学びを引き出す指導技術 第7回：現代社会における情報通信技術の活用の意義と理論の概要 第8回：教師の情報通信技術の活用指導力及び情報活用能力育成の基礎的な指導法の概要 第9回：情報活用能力育成の理論と実践①（情報モラル、各教科等における指導事例） 第10回：情報活用能力育成の理論と実践②（プログラミング教育、STEAM 教育等） 第11回：情報通信技術の活用による学習指導や校務の推進の理論と実践①（デジタル教材の作成と利用等） 第12回：情報通信技術の活用による学習指導や校務の推進の理論と実践②（遠隔授業、LMS による学習履歴の活用、統合型校務支援システム等） 第13回：作成したデジタル教材の相互評価、教育の方法及び技術に基づいた情報通信技術を活用した教育の展望 | | | |
| テキスト なし | | | |
| 参考書・参考資料等 稲垣忠『教育の方法と技術』北大路書房 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』東洋館出版社 | | | |
| 学生に対する評価 各回の小レポート及び小テスト（40％）、最終課題（60％） | | | |

| | | | |
|---|--|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 生徒・進路指導論 | 必修科目 | 2 単位 | 宮本 晃郎 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| ・ 生徒指導の理論と方法を修得し、児童生徒の自尊感情の高め方や健全な発達について演習等を通して理解を深める。 ・ いじめの問題に関する認識を深め、未然防止や事前・事後指導等を適切に行う能力を高める。 ・ 学校現場で起こっている多様な問題行動や発達障害・児童虐待等についての知見を深め、児童生徒の支援の方策等について理解を深める。 ・ キャリア教育の重要性を踏まえ、生き方を考える進路指導の理論と方法を理解する。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が有意義で興味深く、充実したものになることを目指してい。実際の学校現場での具体事例をもとに、「教師と子供との信頼関係の築き方」や「子供同士の望ましい人間関係づくり」「子供自身の自己実現を図るための多様なサポート」などを学んでいく。そのうえで、「人としてどう生きるか」や「自分らしく生きるとはどういうことか」などを出発点にキャリア教育を生かした現代の進路指導の在り方も積極的に考えていく。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：生徒指導への見方・考え方 ～子供からの視点・生徒指導の目的と意義・内容等～ | | | |
| 第 2 回：生徒指導の理論及び方法 ～子供の学校生活・全校や学年学級指導・個別指導～ | | | |
| 第 3 回：教育課程と生徒指導の関連 ～各教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動～ | | | |
| 第 4 回：子供理解と保護者理解 ～子供の心理・発達の段階・多様な保護者の願い等～ | | | |
| 第 5 回：問題行動と関係機関との連携 ～校内における組織的対応・関係機関の種類と役割～ | | | |
| 第 6 回：いじめに関する事例研究 ～いじめの態様と指導・早期発見と早期解決その他～ | | | |
| 第 7 回：不登校に関する事例研究 ～不登校の原因・傾向と対策・多様な支援策その他～ | | | |
| 第 8 回：児童虐待に関する事例研究 ～虐待の種類と対応・子供への影響・保護者対応等～ | | | |
| 第 9 回：多種多様な問題に関する事例研究 ～窃盗・不健全性的行為・薬物乱用・家出・自殺等～ | | | |
| 第 1 0 回：生徒指導と法整備・指導の充実 ～法律や校則の改正・ゼロトレランス・教師の力量～ | | | |
| 第 1 1 回：生徒指導と進路指導の連動 | | | |

| |
|---|
| <p>～理論及び方法・子供の心理・教師の言葉と行動等～</p> <p>第12回：生き方を考える進路指導の充実</p> <p>～社会情勢の変化・情報社会での自己指導力の育成～</p> <p>第13回：生徒・進路指導の総まとめ</p> <p>～信頼関係に基づく指導・豊かな人生につなぐ努力～</p> |
| <p>テキスト</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』教育図書</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>授業中の課題（30％）、レポート（20％）、試験（50％）</p> <p>レポートは添削してmanabaにて返却する。</p> <p>試験後は解答の開設を行う。</p> |

| | | | |
|---|-------------------------------------|------|--------|
| 授業科目名： | 教員の免許状取得のための | 単位数： | 担当教員名： |
| 教育相談 | 必修科目 | 2 単位 | 谷山 優子 |
| | | | 担当形態： |
| | | | 単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| ・学校における教育相談の意義と課題を理解している。 | | | |
| ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。 | | | |
| ・いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害等、今日的な教育課題への教育相談の進め方や組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。 | | | |
| ・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっている。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められている。 | | | |
| この授業では、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などを事例からアクティブラーニングで主体的に学習し、身につけることをめざす。また、発達障害のある子供の理解や支援の方法、保護者や関係機関との望ましい連携のあり方（カウンセリングの基礎基本を含む）を身に付け、実践していくことをめざす。 | | | |
| 授業計画（105 分×13 週） | | | |
| 第 1 回：教育相談の意義（個性の伸長と人格の成長） | | | |
| 第 2 回：教育相談の校内体制づくり、学級づくり（目標の立て方や進め方） | | | |
| 第 3 回：自己理解と好ましい人間関係（予防的・開発的教育相談） | | | |
| 第 4 回：教育相談に関わる心理学の基礎理論と技法（受容、傾聴、共感） | | | |
| 第 5 回：リフレーミング、ストレスマネジメントの指導 | | | |
| 第 6 回：教育相談の進め方①（カウンセリングマインド） | | | |
| 第 7 回：教育相談の進め方②（いじめ、不登校、虐待、非行等） | | | |
| 第 8 回：教育相談の進め方③（進路や生き方）＜学外フィールドワーク＞ | | | |
| 第 9 回：教育相談の進め方④（保護者との連携） | | | |
| 第 1 0 回：グループエンカウンター、アサーショントレーニングの実践 | | | |
| 第 1 1 回：「ケース会議」のロールプレイ | | | |
| 第 1 2 回：スクールカウンセラー・関係諸機関との連携＜学外特別講師＞ | | | |
| 第 1 3 回：まとめ | | | |
| テキスト | | | |
| 文部科学省『生徒指導提要改訂版』デジタルテキスト | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 中学校学習指導要領（平成 29 年告示文部科学省）解説【総則編】、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示文部科学省）【総則編】、その他授業中に適宜資料を配布する | | | |

学生に対する評価

授業等の課題（50％）、レポート試験（50％）

シラバス：教職実践演習

| | | | | | |
|---|------------|-------------|-----------------------------------|---------------|---|
| 教職実践演習（中・高） | | 単位数：2 単位 | 担当教員名： 教科担当：鈴木 宏節 教職担当：宮垣 寛 | | |
| 科 目 | 教育実践に関する科目 | | | | |
| 履修時期 | 4 年次後期 | 履修履歴の把握(※1) | ○ | 学校現場の意見聴取(※2) | ○ |
| 受講者数 約20人 学校種ごとに或いは教科ごとに開講することを基本とし、オリエンテーション等内容によっては合同実施とする。 | | | | | |
| 教員の連携・協力体制 「教職の基礎的理解に関する科目等」と「教科及び教科の指導法に関する科目」の担当者でもある当授業の担当教員が中心となりお互いに連携しながら教員のローテーション方式で実施する。 学校現場経験者でもある教職担当教員が中心となり合同実施部分を担当する。学校種及び教科毎にそれぞれグループに分かれて実施する。その際、履修カルテの情報を共有するなど、個々の学生の履修履歴や、成績評価、教育実習記録、進路希望、日々の状況等に即した指導が行えるよう、教職支援センターが中心にコーディネートを行い連携を図る。教育委員会や学校現場との連絡調整も行い連携を深める。 | | | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 将来、教員になる上で、自らにとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や ICT をはじめとする技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目標とする。 | | | | | |
| 授業の概要 授業では、①教師としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人間関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営等に関する事項、④教科の指導力に関する事項、といった課題目標を達成するために、ロールプレイ、フィールドワーク、事例研究等を多く取り入れ、ICT機器を使用しつつ実践的な指導力の養成を図る。可能な限り、少人数での授業展開をする。 | | | | | |
| 授業計画（105分×13週） 第1回：オリエンテーション（宮垣） 第2回：教職の意義や教員のあり方（宮垣） 第3回：学校現場の課題とその対応（宮垣） 第4回：社会人としての基本の習得と保護者や地域との連携（鈴木） 第5回：フィールドワーク、学校現場実務実習（自己の役割と協力）（鈴木） 第6回：フィールドワーク、学校現場実務実習（校務運営の再確認）（鈴木） 第7回：フィールドワーク、学校現場実務実習（学級集団の形成）（鈴木） 第8回：フィールドワーク、学校現場実務実習（学級担任の役割の再確認）（鈴木） 第9回：教育の今日的課題の事例研究（ICT 機器の運用）（鈴木） 第10回：教育の今日的課題のグループ討議（鈴木） 第11回：学習指導の基本（教材研究・学習指導案作成）（鈴木） 第12回：模擬授業の実践と討議（社会・地歴に関する授業作りと指導力の向上）（鈴木） 第13回：まとめ | | | | | |

| |
|--|
| <p>テキスト</p> <p>これまで使用してきた「教職の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」のテキスト（学習指導要領を含む。）のテキストを適宜使用する。</p> |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p> |
| <p>学生に対する評価</p> <p>課題・レポート（40％）、授業への参加態度（30％）、グループ活動の状況・発表など（30％）</p> |

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。